

妊婦健診の費用が軽くなります

福岡市 公費負担を2回分から5回分へ拡充

福岡市は新年度から妊婦健康診査の公費負担の回数を、現行の2回から5回へ増やします。健診の際に支払う費用が1万円以上軽くなります。

「安心して妊娠・出産を」 世論が市を動かす

妊娠・出産にかかる費用が重く、妊婦健診を受けられず、出産時に救急搬送される人が増加するなど「お産難民」が社会問題となるなか、厚生労働省の通知も出され、全国の市町村で負担軽減策が広がっています。

昨年12月議会には、新日本婦人の会、福岡医療団千鳥橋病院、社会保障推進協議会の3団体による請願が出され、1月には市に申し入れが行われました。こうした世論と運動が今回市を動かしたものです。

日本共産党の要望が実る

日本共産党は妊婦健康診査の公費負担を拡充するよう要求してきました。

昨年10月の決算特別委員会総会でこの問題を取り上げた星野美恵子市議の質問に対し、市側は「公費負担の回数増については今後の検討課題だ」と答えていました。

党市議団は新年度予算編成に関する要望書でも改めて要求。それに対し市が拡充すると回答し、新年度予算に盛り込まれました。

多額の出産費用の不安を解消するなど、福岡市を子育てしやすいまちにするため、引き続き奮闘します。



福岡市に申し入れする団体のみなさん(1月29日、市役所)